



KOBE BUSSAN CO., LTD.



平成 29 年 6 月 8 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 神 戸 物 産  
(コード番号：3038 東証第 1 部)  
代 表 者 名 代表取締役社長 沼田 博和  
問 合 せ 先 代表取締役副社長 田中 康弘  
TEL 079-496-6610

**業績予想の修正に関するお知らせ**

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 12 月 15 日に公表した平成 29 年 10 月期の第 2 四半期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

**1. 平成 29 年 10 月期・第 2 四半期(累計)業績予想数値の修正**

【連結】平成 29 年 10 月期・第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	123,900	5,400	5,200	3,000	114.77
今回修正予想(B)	124,200	7,200	8,000	4,400	168.28
増減額(B-A)	300	1,800	2,800	1,400	—
増減率(%)	0.2	33.3	53.8	46.7	—
前期第 2 四半期実績(C)	119,014	5,030	2,868	1,021	39.07
増減額(B-C)	5,185	2,169	5,131	3,378	—
増減率(%)	4.4	43.1	178.9	330.9	—

【個別】平成 29 年 10 月期・第 2 四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 4 月 30 日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	108,500	3,900	2,500	95.64
今回修正予想(B)	110,900	5,200	3,500	133.86
増減額(B-A)	2,400	1,300	1,000	—
増減率(%)	2.2	33.3	40.0	—
前期第 2 四半期実績(C)	105,114	1,608	974	37.29
増減額(B-C)	5,785	3,591	2,525	—
増減率(%)	5.5	223.3	259.1	—

## 2. 平成 29 年 10 月期・通期業績予想数値の修正

【連結】平成 29 年 10 月期・通期連結業績予想数値の修正(平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 10 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	252,400	12,000	11,600	7,100	271.61
今回修正予想(B)	252,400	13,800	14,400	8,500	324.81
増減額(B-A)	0	1,800	2,800	1,400	—
増減率(%)	0.0	15.0	24.1	19.7	—
前期実績(C)	239,266	11,833	8,729	4,560	174.46
増減額(B-C)	13,133	1,966	5,670	3,939	—
増減率(%)	5.5	16.6	65.0	86.4	—

【個別】平成 29 年 10 月期・通期個別業績予想数値の修正(平成 28 年 11 月 1 日～平成 29 年 10 月 31 日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	222,300	9,400	6,000	229.53
今回修正予想(B)	224,700	10,700	7,100	271.31
増減額(B-A)	2,400	1,300	1,100	—
増減率(%)	1.1	13.8	18.3	—
前期実績(C)	212,781	6,142	4,197	160.60
増減額(B-C)	11,918	4,557	2,902	—
増減率(%)	5.6	74.2	69.1	—

## 3. 業績予想修正の理由

売上高につきましては、主力事業であります業務スーパー事業の新規出店が順調に進んだことによる新店効果や、平成 29 年上期の商品出荷実績が直轄エリアの既存店で 102.3%、全店で 105.6%を達成するなど順調に推移したことにより、予想を上振れる結果となりました。

下期につきましても、引き続き業務スーパー事業が好調に推移すると予想しております。

利益面につきましても、円安が進行し、厳しい環境下ではございましたが、従前より推し進めておりました、当社 100%出資の国内自社工場で生産した商品や、「世界の本物」をコンセプトに世界約 40 か国から輸入した商品など、価格だけではない魅力ある PB 商品の開発に注力し、利益率が向上いたしました。

その他では、円安に対応するため、輸入商品の仕入れコストの一部をヘッジする目的で取り組んでいるデリバティブ関連の評価益が計上される見込みとなったことで、グループ全体として利益拡大につながりました。

以上のことから、平成 29 年 10 月期第 2 四半期及び通期の連結・個別業績予想につきましては、上記のとおり業績予想を修正いたします。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以上